

市営住宅提供は困難

市議会 市長「中心市の役割重要」

【名寄】第4回定例町議会は18日午後、3氏が一般質問を行った。市は名寄市立大の学生への市営住宅提供は困難との考えを示した。

佐久間誠氏(市民連合・凜風会)は、札幌市の取り組みを例に、市が名寄市立大生の住まいとして市営住宅の空き部屋を提供し、町内会活動にも参加してもらおう独自施策を求めた。

同氏は、技術者育成の観点から市道補修の事業量確保を求め、天野建設水道部長は「市財政全体を考慮しながら、一般財源の充当率を高めるよう努力する」と答えた。

大石健二氏(新緑風覚悟)と述べ、国政に

いっさい言及しなかった。同氏はこのほか、市長選で骨格予算となる2018年度予算編成の考え方を質問。中村勝己総務部長は「予算要求を締め切り、一般会計は歳入214億1000万円に対し、歳出は230億5000万円。予算規模は現状では未定。継続事業の風連中央小改築、北斗・新北斗団地建設、橋

りよう長寿命化事業、第2次総合計画重点プロジェクト事業などが要求に上がっている。国の地財計画は明らかでないが、18年度予算は総額確保が非常に厳しく、基金に依存しなければならぬ」と見通しを示した。

同氏は、新年度に予定される松浦武四郎生誕200年・北海道命名150年に関する振興事業を質問。水間剛

営業戦略室長は「天塩川流域11市町村のテック・オ・ペック賑わい創出協議会で記念式典、生誕の地・三重県松阪市へのツアー、児童対象の絵本作、11市町村のゆかりの地を載せたカードの配布を記念事業として行う。地域

の魅力を再認識、交流圏域から期待される病院と大学の充実や、高齢世代の活躍の仕組みづくり、地域コミュニ

ティの維持、全国への情報発信などに意欲を示した。同氏は、フィルム・コミッションの効果やロケ誘致の市の考え方を質問。水間営業戦略室長は「民間4団体がフィルム・コミッション協議会を設立した。提案映画の誘致に向け、支援していきたい」と答えた。

(吉永雅人)